

令和5年（2023年）2月3日

課題解決への第一歩 | 地域の未来は具体的に何に憂い何に備えるべきか？

～生産者の気持ちを整理/可視化/実践をサポートするワークショップ開催～

【本件のポイント】

- 山形大学学術研究院奥野准教授が中心となり、上山市と朝日町の農家・行政・関連企業等を対象としたワークショップを開催する。
- 地域農業コミュニティの高齢化・減少で生じる課題や不安を参加者で共有し、さらには主体的な計画と実践について考える。
- 上山市と朝日町の合同ワークショップにより、地域ごとの取組や考え方を共有することで、課題解決への第一歩となることが期待される。



【概要】

今、地域人口減少・高齢化に伴う課題に地域は直面しています。その課題を解決できる万能なモノやサービスは、残念ながらまだありません。モノやサービスを誰かが開発できるまで、待ちますか？ 私は、課題解決とは、地域で暮らす方の不安を取り除き、子どもたちに明るい未来を示すことだと思います。ヒトの不安を軽減できるのは、モノやサービス以外にもあるかもしれません。まず、当事者の不安な気持ちを整理、可視化、共有することで不安を軽減し、解決に向かう道筋を見つけることが必要です。

今回、山形大学学術研究院奥野准教授が中心となり、地域人口減少・高齢化の課題解決の第一歩として、当事者が具体的に課題を把握し、地域農業コミュニティに必要なモノ・サービスを考えるためのワークショップを開催します。今回のワークショップは、上山市と朝日町の農家・行政・関連企業等を対象に、地域ごとの取組や考え方を共有することで、課題解決への第一歩となることが期待されます。

今後は、本ワークショップで湧き出たアイデア・ノウハウを他のコミュニティに共有できる仕組みを整備していきます。

【背景】

今、地域人口減少・高齢化に伴う課題に地域は直面しています。残念ながらその課題を解決できる万能なモノやサービスは、まだありません。課題解決の第一歩は、当事者の不安な気持ちを整理、可視化することで不安を軽減し、解決に向かう道筋を見つけることが必要です。今回、山形大学学術研究院奥野准教授が中心となり、他の地域での取組や考え方などを共有し、地域間でつながりを作ることを目的に、上山市と朝日町の合同ワークショップを開催します。当日の参加者のニーズに合わせ、車座による情報交換、実践的な課題解決の計画、実践などをサポートします。

【開催概要】

- ・ 場所：山形大学 小白川キャンパス 理学部 11&14 教室
- ・ 日程 2023年2月14日（火） 午後2時～5時
- ・ 参加対象：上山市、朝日町の方 （主に生産者、ご家族、行政、関連企業、高校生、中学生、小学生）

【今後の展望】

- ・ 本ワークショップで出たアイデア・ノウハウを他のコミュニティに共有できる仕組みの整備
- ・ ご希望があれば、他のコミュニティや農業以外のコミュニティを対象としたワークショップ開催

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【サポート】

- 公益財団法人 トヨタ財団
- 山形大学「つなぐちから。」 社会共創活動推進スタートアッププロジェクト

お問い合わせ

学術研究院准教授 奥野貴士（生物物理学）／理学部主担当

TEL 023-628-4580 メール okuno@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

参加者みんなで考える

WORKSHOP

山形大学



地域の近未来は具体的に何に憂い
具体的に何を備えるべきなのかを

当事者が考える

上山市&朝日町 農業関係者版 合同開催

地域の
人口減少
・
高齢化

今、地域の人口減少・高齢化が危惧されています。

人口減少の対策として、具体的に目に見える

対策の一つに小学校の統合があります。

地域農家の減少・高齢化に、何か対策されていますか？

農家の
減少
・
高齢化

必要なモノ・
サービスは？

研究者や行政が考え
やってもらうのではなく
地域の未来の姿を
当事者であるみなさんで
一緒に具体的に
考えていきましょう。

地域農業に
問題は
出る？



対象 どなたでも
(地域に関係する農家、家族、行政、
農業関連企業、大学生、高校生、中学生、小学生)

概要

- 5,10,20年後の地区の生産者数、年齢層を具体的に見積もる
- 5,10,20年後の生産者数、年齢層になったときの具体的な不具合をあげる
- 今～今後、必要なモノ・サービスを考える
- 今できることを考える

日程 2月14日(火) 午後2～5時

場所 山形大学小白川キャンパス
理学部 11&14 教室

連絡先: 奥野貴士(山形大学)
メール: karuhoku@gmail.com